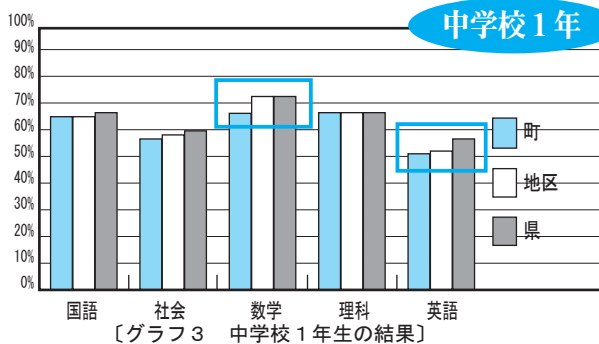
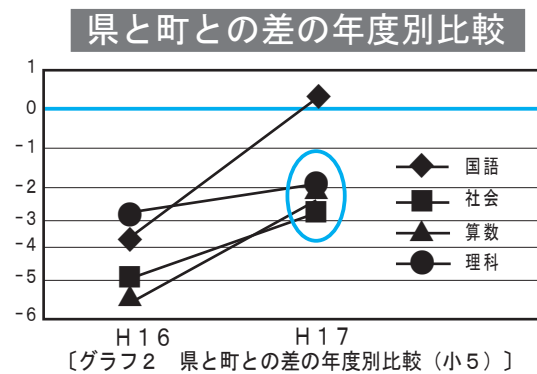
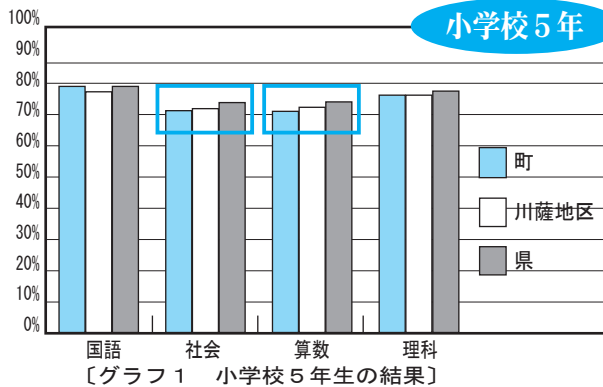


平成17年度「基礎・基本」定着度調査の結果について

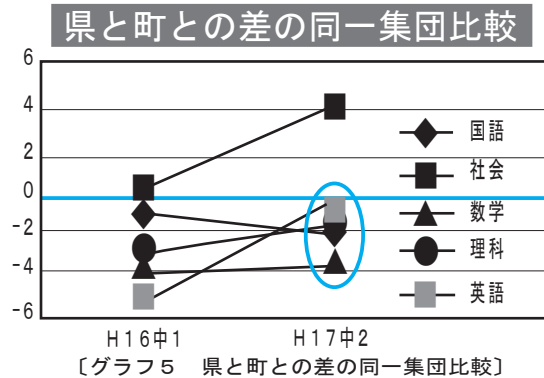
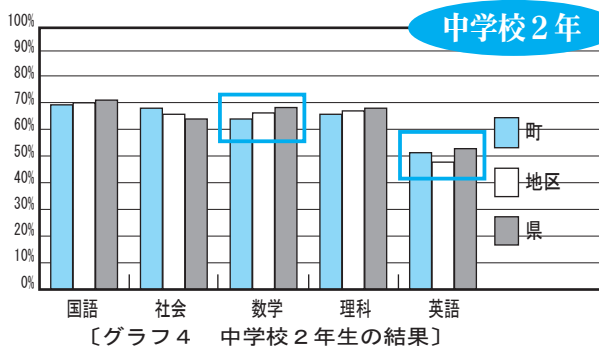
平成16年度から、県教育委員会では県内全小・中学校（対象：小5，中1，中2）で、「基礎・基本」定着度調査を実施しています。この調査の目的は、身に付けなければならない基礎学力の定着状況を把握し、指導法の改善を図り、子どもたち一人一人に力をつけることにあります。

今回、本年1月に実施した「さつま町」の児童・生徒の実態をお知らせします。

各学校では、自校の実態を把握・分析し、すでに具体的な対策を立てて指導にあたっております。



〔小学校5年生の分析（グラフ1，2）〕
 ○ 県、地区と町平均との差は、ほとんどありません。
 県平均と町平均の差は、平成16年度より、平成17年度が縮まっており、児童や教師のがんばりが成果として出ています。
 社会、算数の定着度は、県との差が若干みられますが、国語は県平均を上回り、特に漢字の定着度が高いようです。



〔中学校1・2年生の分析（グラフ3，4，5）〕

○ 中1，中2とも、数学、英語の2教科が県平均との差が大きく、努力が必要です。特に、英語は、県・地区と同様、定着度が低い傾向にあります。中1の理科，中2の社会は、県平均を上回っています。

平成16年度の中1，平成17年度の中2という同じ子ども達の集団（同一集団）で県との差を比較すると、県との差は縮まりつつあり、今後の伸びが更に期待されます。

町教育委員会の取組の重点

- 1 学力の基礎となる国語力の向上に努めます。
- 2 教師の指導力を高める研修の充実に努めます。
- 3 家庭学習の充実に努めるための指導に努めます。

